

# 郷音 流

HIBIKI

高田教区報

高田教区 教化テーマ

私はどこで生きているのか  
～たずねよう 真宗の教えに～

2020年12月25日 第150号



池の平青少幼年センター改修工事完了

苦から  
逃げれば  
吾は追かけてくる  
樂き  
追えば  
樂は逃げていく

徳永木蓮庵



高田教区

検索

発行所 真宗大谷派（東本願寺）高田教務所  
上越市寺町2-24-4 ☎025-524-3913  
<http://www.takada-kyoku.jp>

発行 橘 秀憲  
印刷 永田印刷株式会社

# 珠数つなぎ法話

次回 渡邊

今回 藤島

前回 金子

リレー方式の珠数つなぎで法話をいただくコーナーです。

## 第2回 人間を悲しみ嘆く心

第1組 圓照寺 藤島 直

「人間は一人では生きていけない。いや、人間は一人で生きてはいけないのだ」

子どもの頃、見ていたアニメーションのセリフです。文明滅亡後の世界で、主人公の少年に祖父が最後に遺す言葉です。そして、主人公の少年は仲間を探す旅に出るのです。最近、再放送されていて、邂逅し、考えさせられた言葉です。

確かに、人間は一人では生きていきません。これは誰でも分かっている事実です。しかし、大勢なら生きていけるのでしょうか。大衆の中に生きていても、孤独に病む人もいます。よほど気を許せる仲間に出あわない限り、一人の方が気楽に生きられるという人もいないのでしょうか。そうであれば、人間は一人でも生きていけることになってしまいます。

むしろ、「人間ならば一人では生きていけない」のです。だから、「人間は一人で生きてはいけない」のです。なぜなら、

人間という存在が成就するという性格をもつからです。人間として生まれるということは、人間として生き、人間として死ぬということです。たとえ人間として生まれても、人間として生き、死んでいくことは、一人ではできません。だから、人間が人間と成るために、人間の存在が必要なのです。それは自分に都合のいい仲間だけではありません。

親鸞聖人は「煩惱成就のわれら」といわれます。煩惱とは、心身を煩わせ悩ます苦しみの原因です。それが成就されたのが「われら」人間なのです。その人間のやってきたことだけ見れば、愚かで悲しい事ばかりです。時折、「所詮、人間なんて」と愛想をつかしてしまいたくなります。しかし、愚かさや弱さを、深く悲しみ、嘆く心が、人間を愛おしく慈しみ深い存在とする事実を、宗祖の「悲しきかなや」という自らの嘆きに知らされるのです。宗祖は人間を嘆いていたのだと…。

コロナ禍の影響でしょうか。最近、自ら死を選ぶ人が増えているそうです。生きる価値や意味を自ら否定し、自らの生きる権利を奪い去ることは、悲しいことです。人間、誰も死にたいと思っただけで生まれてこないはずで、生きるために生まれてくるのです。生きたいと思っただけで生まれてくるのです。だからこそ、人間は、人間を、深く悲しみ嘆かなければならないと思います。

今回は第1組 本立寺 渡邊 智子さんです。



と伝えられ!

掲

示

板

別院編

### 高田別院報恩講

今年度の報恩講が10月10日(土)・11日(日)の一昼夜での日程で厳修された。奉仕研修同様、規模縮小により御鍵役御出仕の御参修法要や帰敬式、公開講演会や「おたや実行委員会」による出店などの催しが中止となり、例年からの大きな変更を余儀なくされた報恩講となった。そんななか参拝いただいた方々が少なからずあったことは、大変有り難いことであった。コロナ禍の終息を願いつつ、心新たに来年度の報恩講への一年の歩みが始まった。



### 新井別院報恩講のご報告と御礼

去る11月2日より3日まで、新井別院報恩講が勤まりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大への対応と致しまして、例年の日程を縮小し、2日(月)、3日(火・祝)の一昼夜法要のお勤めとなりました。屋台や大根煮、稚児行列等の催しも多くが中止となる異例の報恩講となりました。申し訳ありませんでしたが、それでも延べ200人ほどの方々にご参拝いただきました。誠にありがとうございました。来年の報恩講は例年通り無事に勤まりますよう、コロナ禍の早期終息を願っております。



# 門徒仏々 言いたい放題

②

徳川幕府のお陰により日本の仏教に寺檀制度ができた。戦国の世が、徳川家康の天下統一により、安定していく中で、キリスト教への警戒心から異教を排除する手段として、寺檀制度が政治的な理由で出来上がる。

江戸時代は、家康が征夷大将軍になった年から、明治元年までの265年の間、寺院は幕府の庇護の下、ぬるま湯に浸かるように安穩と過ごしてきた。「先祖供養」「葬式仏教」の長い日本の仏教歴史が培われてきた。きりとて、江戸期の寺院には、行政上で、戸籍簿と住民登録の管理をする役割に幕府は寺檀制度を利用してきた。つまり、市

役所と町村役場の仕事を与えられていた。一方、江戸中期以降、市井の子ども達に読み書き算盤の手ほどきから、論語までも教えていたのだ。

時代は明治となり、市民平等の世の中に大きく変化した。寺檀制度も終焉を告げたにも拘らず、150年を過ぎた今日でも、寺と檀家の馴れ合いが続いている。

平成に入り、寺と檀家の関係が薄れてきて、寺の存在意義が問われている。あまつさえ、阪神淡路大震災、東日本大震災という未曾有の自然災害に対して、仏教は被災者に何をしてきたか、少なくとも悩める人々に寄り添い、救いの場になることとは言い難い。日本仏教は国家鎮護の仏教から、民衆の信仰心に根差した、宗祖親鸞聖人の「個の宗教」の回歸が希求されている。文豪・夏目漱石は文学で「個人主義」を追求した。「寺と檀家」の関係から「寺と門徒」の個の

関係を構築すべきである。現代を生きる人の悩みに真正面で寄り添う。むしろ寺がその核になるべきだ。

現代の福祉社会を支える福祉理論に「ケースワークの原則」がある。とりわけ「個別化の原則」が重視され、介護保険法に個人の尊厳の精神が流れている。時代は親鸞が千年前に訴える阿弥陀如来への「個の信心」を大切にすることだ。門徒仏々言いたい放題を捲し立てる。

酒吞童子



子どもの心をキラリと照らす

# ココロ テラス



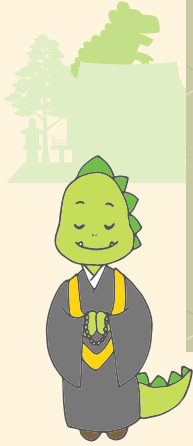
家族や友達と過ごす時間、学校生活や身近なできごとから生まれる悩みや疑問はたくさんあるね。

こんな疑問が届いたらよ

虫をつかまえて飼うことが好きだけど、いつも死なせてしまいます。でもまた飼いたくなります。それは悪いことですか。



今回も、響流寺のお坊さん、「テラスさん」に聞いてみよう。



生き物ではないけれども、大好きなおもちゃが壊れてしまったり悲しいよね。なんとか直らないかとあちこち触っても直らなかつたら、新しいものを買えばいいやと思うかもしれない。では、つかまえた虫はどうだろう。やっぱり動かなくなると悲しいし、新しい虫が欲しくなるのかな。でも虫っておもちゃとちがうよね。



生きているものを飼うってどういうことだろう。たとえばカブトムシは生き物だけど、それぞれに〇〇くんとか〇〇ちゃんとか名前がついていないだけで、全く同じカブトムシは一つもないことはわかるよね。生き物には「いのち」があって、それぞれの「いのち」を一生懸命生きてるんだね。「人も草木も虫も 同じものは一つもない おなじでなくて みな光る」※ 私たちみんなに名前があり、全く同じお友だちはいないように、虫たちも全く同じ虫はいないんだね。こんど虫を飼うときは、虫たちが「うまれていきんでいく」そのことを考えながらお世話をしたらどうだろう。

※真宗教団連合カレンダー「2020年1月の法語」榎本栄一

## コトバキラリ

### イナゴ

まど・みちお

はっぱにとまった  
イナゴの目に  
一てん  
もえている夕やけ

でも イナゴは  
ぼくしか見ていないのだ  
エンジンをかけたまま  
いつでもにげられるしせいで…

ああ つよい生きものと  
よわい生きもののあいだを  
川のように流れる  
イネのにおい

テラスさんに聞きたいことが  
あったら、手紙やメールを送って  
ください。待っています。



今さら聞けない

知りたいこと

②

問

## 靖国問題

社会教化研修部門の存在を知ったのは、3年前、広報委員会に所属した時でした。

現在、教区教化委員部門に解放推進委員会・男女平等参画を考える会・靖国問題研究班があります。解放推進・男女平等については、門徒の私にも主旨が何となく理解できます。が、靖国問題は異質のよう感じます。

真宗の教えとの結び付き、この問題を門徒にどのように教宣しているのか、また、どうしたいのか教えてください。

答

このような疑問を抱えておられる方は、少なからず（＝大いに）おられるようです。

真宗の教えと靖国問題との関係、ご門徒との課題の共有、そして「どうしたいのか」という問いですが、全て「聞法して真宗の信心に生きる門徒になる」ことが願われています。

真宗の信心の課題として靖国を深く問題にされた和田稠しげしという先生がおられました。その和田先生のお言葉をご紹介します。

「靖国の問題がはっきりしないということは、それを見る信心の視点が決まらずに、あんなにわらわらしているのです。（中略）一人ひとりが真宗の信心に目覚め、信心に生きるといふ者になれば、靖国の問題はごたごた説明せんでも、ちゃんとみんな分かる。そういうのが真宗の信心です。（中略）靖国のことをご縁にして私たちが本当の浄土真宗の門徒に立ち返る。そのことは、（中略）この混乱の極に達している、この現代の世界に我々がどう生きるかという、そういう大きな人類の未来に関わるようなお仕事を賜わることである」（傍点・宮本）

さらに、こう仰っておられます。

「私にとりましては、特別靖国の話をしなくても、私が真宗に生きるといふことさえ話しておれば、それが靖国を明かすことになるのです。真宗門徒としての信を離れて、特別に靖国を語るなどということとは考えられません。靖国の問題は私の信心そのものの問題、信心の本質にかかわる問題、だから真宗の信心さえ開ければ靖国の問題は、もういっぺんに分かる。ですから靖国は難しく分らないということは、こちらの真宗者としての信心が曖昧だからだということになってきます」

（『和田稠講話集』第七巻・五一〜五三頁）

信心とは「如来より賜わりたる信心」ですが、そこに「人類の未来に関わるようなお仕事を賜わると教えられます。阿弥陀如来の信心の智慧によって、私たちの抱える深い闇が照らされ、靖国の闇もまた照らされて、その課題を共有できる世界を賜わるのでしよう。

榮恩寺住職 宮本亮二

お薦めの本

『信の回復』和田稠（東本願寺出版部）

『真宗と社会問題』平川宗信（高田教区）

悦

池の平青少年センターから

## 御本尊還座式、

### ならびに第17回報恩講と

## 新そばの夕べ

池の平青少年センターでは耐震補強などの改修工事が11月末で終了し、12月4日に「御本尊還座式、ならびに第17回報恩講と新そばの夕べ」をお勤めすることができました。池の平青少年センターの改修工事は「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業」として施工され、談話室の設置や1階トイレの改修など、より快適に施設をご利用いただけるようになりました。

組や地域の研修会や交流会、各御寺院の同朋会や聞法会などできれいになった池の平青少年センターを是非ご利用ください。



改修後の施設



ライブの様子



お斎の様子



保倉 謙雄 氏

上野 一栄 氏



法要の様子



ご利用に関しては、池の平青少年センター(0255-8612801) または高田教務所(025-52413913)までお気軽にお問い合わせください。

## 聞思学場だより

### 聞思学場

#### 第5期開講に際して

室長

井上 円

2020年10月2日、高田教区教化研鑽室（聞思学場）の第5期目が開講した。今回の研修員は5名、聴講生が6名で、指導の水嶋聡氏・豊島信氏の二人の助けを得て、進めていくことになる。

第4期が『阿弥陀経（小経）』であったことを受けて、今期は『観無量寿経（観経）』の序分をテキストとした。3年間では、正宗分まで進めていくことは困難であろうと判断したため、深い意味があるわけではない。

『小経』を講読していて気付いたことは、法然上人が立教として挙げた「三経一論」は、在家の仏道というものを指し示すものであるということである。『大経』は「十方衆生」と願い、

その後半に登場する弥勒菩薩は在家の菩薩である。『観経』の教説は、在家の王妃韋提希夫人の求めに応じて説き出されたものである。また『小経』は「善男子善女人」に念仏の法を開示し、そして世親の『無量寿経優婆塞舍願生偈（浄土論）』も同じ「善男子善女人」の為の仏道として了解されている。この「善男子善女人」とは、在家の者で仏法を聞こうとする人を積尊が讃嘆する言葉である。ところが「善」の一字が付いているために「善い行いをした人」だと誤解している人が多い。聴聞の姿勢ができた人を誉める言葉であって、悪人もその中に入っていることを忘れてしまっている。その意味で

言えば、「三経一論」は、みな在家の仏道を教えるものと言えよう。その教えに帰して在家というものを選択したのが、親鸞聖人であるという視点も成り立つように思える。

但し今『観経』は、その差別的な言葉を巡って、長年の指摘を踏まえた反省や検討が行われている真つ最中であることも事実である。その検討の数々をきちんと理解していただきながら、講読を進めていきたいと考えている。



水嶋 聡氏 井上 円氏 豊島 信氏





## 愚僧のつぶやき

### 〈真宗の葬儀編⑩〉

前は、納棺時の改服の話で、お念珠の心を頂いて参りました。今回は、略肩衣の心を頂いてゆきたいと思えます。略肩衣とはその名の通り、肩衣を略したものであります。正式には本肩衣という袖なしの上着で、上下(かみしも)の上(かみ)の原型となったものです。

真宗門徒は、仏事に際して敬いの気持ちをもって、この本肩衣を着物の上に羽織っていました。でも、日本人が洋服を着る様になると、洋服に本肩衣は似合わないという事になり、現在の略肩衣が考案されたという事でありあります。

ただ、私が不思議に思いましたのは、なぜ、本肩衣を略したら略肩衣の形になったのかという事でした。そこで色々

と調べてみた所、真宗大谷派には以前、呪字(しゅじ)袈裟というお袈裟があり、その形を模したものが略肩衣であった訳です。

では、その呪字袈裟とはいかなるものかといえば、昔、中国の僧侶は苦しむ民衆の救われる道を求めて、命がけでインドまで行き、経典を頂いてきたといえます。その時に、経典等を袋に納め、それを紐で首に吊したのが原形と伝えられています。そして、その袋の部分を首に掛け、紐を前に垂らして、僧侶の象徴としたのが呪字袈裟であった訳です。

私、先日、奈良県にございます薬師寺様へお参りに行ってきました。境内には色々な建物があり、その一つに、『西遊記』で有名な玄奘三蔵法師ゆかりのお堂がありました。私、呪字袈裟の話を思い出しまして、そのお堂に行ってみたら、〈不東(ふとう)〉と書かれた額が掲げられ

ていたんです。どういう意味かと思ひ尋ねてみたら、「あのお言葉は、玄奘様の志を表したものです。一旦、祖国(中国)を出発して西方のインドへ向かったからには、経典を頂いて帰るまでは、決して東(中国)へは戻らないという意味です。」と教えて頂きました。つまり、呪字袈裟を模した略肩衣には、一切の悩み苦しむ人を救いたいという先人の方の願いが込められている訳です。そして同時に、阿弥陀様が仏の命をかけて我々を救わずにおかないというお誓いをそこに頂く事でもあります。

ですから、我々真宗門徒が略肩衣を首に掛けるということは、先人のご苦勞を憶うと共に、「仏の心を身にまとう」という意味があるのだと教えられております。

合掌 称六字

ペンネーム 維摩教信

 <p><b>第8組</b> 明岸寺 ほうりゅう みつあき 法隆 光昭</p> <p>法然上人門弟の「捨ててこそ」の法話。</p> <p>その一例「死をいそぐ心ばへは後世の第一のたすけにて」と死を勧める。</p> <p>命を一番貴ぶ世間法、そこを出ていく仏法の、命への執着を捨てる味わい。</p>	<p><b>第4組</b> 養性寺 うちやま 内山 眞明 まさあき</p> <p>4組は、コロナ禍という事もあり特に公開講座等はありません。社会問題研修班が教化リーフレットを制作中、文章教化を通して大谷派の社会問題の理解を組内門徒さんに促して行く予定です。</p>	 <p><b>拜啓</b></p> <p><b>通信員より</b></p> <p><b>ねほりはほり</b></p>
<p><b>第11組</b> 光圓寺 たけうち じゅんいち 竹内 淳一</p> <p>先日、百々海さんのお話をお聞きしましたが、『無量寿経』の中に仏の化を蒙るところ、災穢不起・国豊民安・兵戈無用の世界が現前する、というくだりがございます。</p> <p>まあ、一人を尊ぶ仏の世界を無視するところでは、いろんな工夫も科学の力さえ、虚しく終始するのみかも知れませんが、愈々科学の力も動員いただき、好きブツの世界としてのこの人生の生存が啓かれていくことを、願います。</p> <p>詳細は次のサイトをご覧ください（更新不定期）。</p> <p><a href="https://buddhistjtp.wordpress.com/">https://buddhistjtp.wordpress.com/</a> <a href="http://manzokuzan-kouenji.blog.jp/">http://manzokuzan-kouenji.blog.jp/</a></p>	<p><b>第5組</b> 聴信寺 ことた 居多 啓 さとし</p> <p>11月26日、仏青によるスポーツ会が開催されました。初回の今回はフットサル。子どもと大人、合わせて20名近くが集まったの賑やかな会となりました！</p> <p>思いっきり身体を動かして心身ともにリフレッシュする機会としてこれからも続けていきます。どなた様も是非ご参加下さい！</p>	<p><b>第1組</b> 光照寺 うめざわ 梅澤 謙吾 けんご</p> <p>暫く中断していた推進員養成講座が9月に再開。靖国、差別、女性と難しい講義が続きましたが、毎回20人ほどの参加者がありました。人が自由に移動し、集まることのおかげがえのなき、福沢諭吉は『男女交際論』序文で「人の世に在る往来交際せざるべからず。往来交際せざれば社会存すべからず。社会存せざれば人間無きなり」と言っています。私たちはどうありたいのか、それがいま問われているのではないのでしょうか。</p>
<p><b>第12組</b> 善立寺 やまこし 山越 英隆 ひでたか</p> <p>来年の話になりますが、第12組では毎年3月11日に尾神岳にある報尽碑についての研修会を開催しています。また、翌12日には早朝より報尽碑への雪中参拝を行います。コロナ禍で確定はできませんが、実施の際には是非ご参加ください。詳細は来年はじめの高田教務所通信等をご覧ください。お待ちしております。</p>	 <p><b>第6組</b> 福成寺 ちんせい 鎮西 広円 こうえん</p> <p>新井別院のこども報恩講の写真です。</p> <p>「素直に純粹に楽しめる」、「色々なことを感じる」そんな空間が今の私たちには大事だと思ふ時間を過ごさせていただきました。</p>	<p><b>第2組</b> 常圓寺 すずい 鈴井 祐恭 ゆうきょう</p> <p>第二組では、新型コロナウイルス感染防止を徹底して9月27日井上一英先生より門徒研修会、10月3日藤島直先生より靖国問題、11月14日井上博先生より同和研修と3回の研修会を実施しました。研修会と合わせてコロナ禍で参加くださるご門徒の皆様の姿勢にも聞法の精神を学ばせていただいております。</p>
<p><b>第13組</b> 福浄寺 りつえい 井上 立英</p> <p>自坊に帰り、初めて高田教区の両別院の報恩講のお参りに遇わせて頂きました。今年は新型コロナウイルスの影響で規模を抑えて行われましたが、多くの方のお力によって成り立っているものだと実感しました。</p>	<p><b>第7組</b> 願生寺 ひらいで 平出 文勇 ふみお</p> <p>去る11月13日に第七組親鸞聖人講座が新井別院にて行われた。表具師として(有)後藤経装 代表をされている後藤光晴氏をお招きし、掛軸の正しい扱いや真宗の表装の特徴、また仕事を通じて聖人に出遭われた経緯など2時間に渡りお話いただいた。</p>	 <p><b>第3組</b> 正光寺 よしあき 高橋 良暁</p> <p>10月5日、6日に、秋の高田別院奉仕研修がありました。例年は、多くの門徒さんから集まっていたいただき、館内清掃やお磨きをしていただいていた。しかし、今年は新型コロナウイルスの影響で、各組の代表者と列座で仏具のお磨きを行いました。</p>

# 快刀乱麻

去る10月27日、29日に「第2次教区改編説明会」が開催され、両日合わせて100人を超える出席があった。

教区改編については、様々な意見が寄せられる中、教区改編委員会、地方協議会において検討、協議が行われてきた。今回の説明会は、「教区及び組の改編に関する条例」第31条に規定される合意事項7項目の説明が主だった。

すでに全寺院に配付されている合意内容案は、大枠のものであり、詳細については「新教区準備委員会」で検討される予定である。そのため具

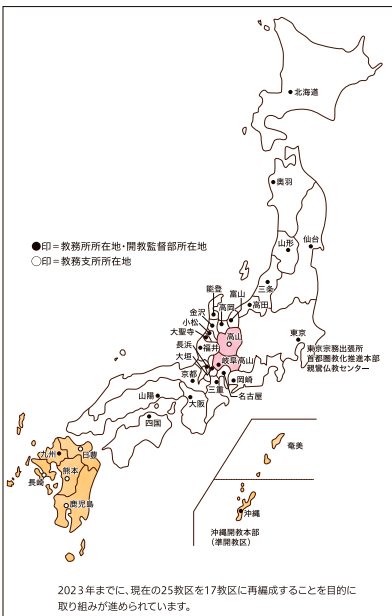
体的な展望は不明瞭ではあるが、上意下達ではなく、教区人の意見、要望を反映しながら検討をしていくことを体现したと受け止められる。しかし、教区内に約300の寺

## （第五編） 教区及び組の改編に関する条例

### （地方協議会の合意）

第三十一条 地方協議会は、教区改編試案に基づき、次の各号に掲げる事項について合意するものとする。

- 一 教区改編の実施により新たに発足する教区（以下「新教区」という。）の名称に関する事項
  - 二 改編実施に係る日程に関する事項
  - 三 教務所及び教区の施設に関する事項
  - 四 改編前の改編関係教区（以下「旧教区」という。）の財産に関する事項
  - 五 新教区に編入される別院に関する事項
  - 六 新教区の組の名称に関する事項
  - 七 その他必要な事項
- 2 地方協議会は、前項に掲げる事項について合意書を作成し、改編関係教区の教区改編委員会及び中央改編委員会に報告しなければならない。



宗門現勢一覧（2020年7月1日現在）

新教区発足年度(予定)	新教区名	現教区名	組数	寺院数	教師数	僧侶数	門徒指数
-	-	北海道	21	471	1,086	2,036	115,369.58
2021	東北	奥羽	7	164	315	551	41,751.77
		山形	10	143	240	385	14,948.53
		仙台	8	114	219	372	22,600.29
-	-	東京	25	503	1,037	1,839	140,403.81
2023	(新潟)	三条	16	462	927	1,656	58,157.97
		高田	11	305	503	947	24,007.85
2023	富山	富山	5	212	342	690	20,948.15
		高岡	8	273	526	1,046	21,546.76
2023	-	能登	16	358	668	1,274	19,265.71
		金沢	13	330	732	1,479	26,516.68
2023	(小松大聖寺)	小松	1	93	191	376	15,064.10
		大聖寺	1	38	92	145	6,307.80
-	-	福井	10	216	395	770	18,134.09
-	-	岐阜高山	23	323	666	1,295	39,304.11
-	-	大垣	18	411	818	1,506	22,893.35
-	-	岡崎	37	438	881	1,626	75,877.33
-	-	名古屋	32	678	1,533	2,786	110,889.54
-	-	三重	11	218	430	764	17,561.79
2023	(京都)	長浜	14	389	582	1,249	9,514.45
		京都	29	689	1,171	2,269	40,934.83
-	-	大阪	27	645	1,291	2,531	65,505.41
2023	-	山陽	15	267	559	970	27,595.02
		四国	9	108	190	376	15,592.15
2020	九州	九州	27	822	1,773	3,179	162,963.91
		合計	394	8,670	17,167	32,117	1,133,654.98

※( )の新教区名は地方協議会にて現段階で想定されている名称です。  
※寺院数は、寺院・教会・別院を含みます。  
※門徒指数は、2017年2月1日に実施された「第3回門徒戸数調査」の結果数値です。

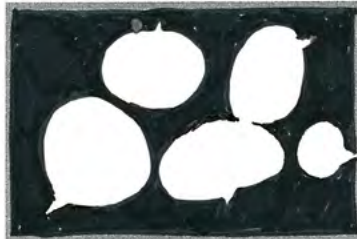
院がある中で説明会参加が100人ということは特に住職の意識が低いのではないかと、という声もあった。

実際に参加された住職方からは教化の展開、別院の護持など、質問、要望が出されていたが、一部の方のみで活発な意見、発言とは取れなかった。

合意案7項目について、2021年3月末までに高田・三条両教区会・教区門徒会の議決を得ると「新教区準備委員会」が設置され、より具体的な協議、検討が進められる予定だが、役職者に任せる、報告を待つのではないかと、自らが関わっていくこと、否定、反対するだけではなく、特に教化の発展、別院崇敬について発展的な意見を発していくことが求められる。

ている。教区人として、我々一人ひとりが向き合っていかななくてはならない課題ではないだろうか。

お寺のまど  
さくえ トラメイシ



教区ホームページ連動企画

『響流』～WEB版～

ネット DE 仏教



コロナ禍で在宅勤務が増えています。現在世界中で活用されているのが「Zoom (ズーム)」というオンラインミーティング (ネット上のビデオ会議) ツールです。人と人が直接集まれないなか、オンラインで座談会など開催してみたいかがでしょうか? 今回はZoomを活用するための記事を書きました。

今回の記事

第2回 Zoomを活用してみよう!

〈高田教区ホームページアドレス  
⇒ <http://takada-kyoku.jp>〉



響流川柳

さあ ひごろのうつつ慣を  
川柳を作り  
晴らしてみても  
いかがでしょうか。

報恩講	コロナで自粛	静粛に	宏富
別院の	放置ぎんなん	小粒なり	宏富
あわこわい	軒下に吊る	塩引鮭	さけカス
軒下に	大変身した	秋の鮭	さけカス
年寄りの	雑煮の餅が	命取り	年寄りの冷餅
猫狙う	軒下に映える	鮭の貌	桑取川漁太郎
GOTOで	緩む気持ち	が	感染源
回収で	膨らむ期待	玉手箱	喜縁
為政者の	好みに合えば	有識者	喜縁
降る雪に	慌てて始めた	冬支度	喜縁

こもれび

『響流』は節目の150号を迎えました。本号の「こもれび」欄への寄稿は、巡り合った機会とはいえ、ご縁を感じています。

さて、有能な門徒の中から、凡愚な私が『響流』編集に携わるのは、身の引き締まる思いです。何故、私が選ばれたのか。それは以前、「報盡為期碑物語」DVDを作成したことに関係していると思っています。

第14次教区教化委員会規則の変更に伴い、「伝道広報部」が誕生しました。詳しい内情を知らずにお受けしたものの、「伝道」の2文字が付いたことに、緊張・責任感が全身に走りまわりました。早速、第149号『響流』の編集に携わりました。校了まで8回の編集会議を経て完成した『響流』を手にし、充実感を新たにしているところです。

ところで、『響流』は教区報の位置付で発行されていますが、発行部数は1000部と少なく、教区内の全門徒には配布されていません。編集内容は門徒をはじめ、多くの皆さんから読んでいただけるように、工夫してあります。現状の配布先を拡大し、高田教区全ての門徒に配布が目標です。

私は、門徒の立場で話題を提供し、開かれた、読みやすい『響流』にしたいと思っています。

「伝道」を意識して、さらに充実した『響流』を目指します。

(深井宏隆)

みなさまの声をお聞かせください

『響流』に対するご意見、ご要望をお寄せください。また、各コーナーにご応募お待ちしております。高田教務所に設置した受付箱、または下記メールアドレスにて受け付けております。

より多くの方に手に取っていただける教区報にするために皆様のご協力をお待ちしております。

高田教務所(響流担当宛)  
[takada@higashihonganji.or.jp](mailto:takada@higashihonganji.or.jp)